

Lesson 1 Pentatonic Scale Introduction

Lesson 1 ペンタトニックスケールについて

最初の数レッスンではペンタトニックスケールを採り上げるよ。

ペンタトニックスケールはギターという楽器にとってはとても相性のいいスケール。

実際にギターはEペンタトニックと全く同じ構成音でチューニングするからね。

「ペンタ」とは「5」という意味なので、ペンタトニックスケールは5つの音から構成されているスケール。ちょっとやってみるけど、最初はシンプルにスケール構成音を弾いてみるから、そのサウンドを確かめてみて。聴けば分かるはずだよ。

こんな感じ…。

-playing(0:36)-

今は2オクターブ分を弾いたけど、1オクターブ分、つまり5つの音だけを弾くと…

-playing(0:58)-

もう1オクターブ上を弾くと…

-playing(1:06)-

こんな感じのサウンドだね。ダダダァ〜。

ギターという楽器は今弾いたEペンタトニックの構成音と同じにチューニングされているよ。

音階の順番としてはバラバラだけどね。

最初の音は6弦開放E…次が3弦開放G…そして5弦開放A…2弦開放B…4弦開放D…そしてオクターブ上の1弦開放E。

こんな感じで、ギターという楽器は、何も押さえなくても(Eマイナー)ペンタトニックのチューニングになっている。

このペンタトニックスケールはとても汎用性が高く、特にブルースとの相性がいい。

(1:58)

今度は、ちょうど人の手の大きさに相当する3フレット分を使って…Eペンタトニックスケールを一番高い音(1弦開放E)から弾くと…

-playing(2:15)-

これが伝統的なペンタトニックスケールなんだけど、このスケールの背後にEのコードが隠れているのが分かるかな？

つまり、Eマイナーペンタトニックを学ぶということは、実質的にはEのコードを学ぶということになるんだね。

-playing(2:33)-

という感じ。

こんな感じで、続く3つのレッスンに渡ってペンタトニックスケールを採り上げて、このスケールの3つの弾き方を紹介してゆくよ。

【注記】

- ・押弦するポイントについてRobbenは様々な言い方をしていますが、ここでは「5弦3フレットC」「6弦開放E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robbenの実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robbenが言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robbenの言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳 山岸敦